

救急安心センターのこと、どこまで知ってる？

救急課



皆さんは、突然の病気やケガで病院を探するのに苦労した経験はないでしょうか？

また、今の症状は病院で診察を受けるべきか誰かに相談したいと思ったことはないでしょうか？

そんな悩みに応えてくれる「救急安心センターおおさか」(#7119)が今回のテーマです。

救急安心センターおおさかでは、救急医療相談や救急病院の案内に24時間365日対応しています。昨年1年間の着信件数は284,665件あり、事業開始以来最も多い件数となりました。

益々需要が高まっている「救急安心センターおおさか」を、これを機にもっと知って頂けたらと思います。

救急安心センターおおさかの沿革と概要

大阪市消防局では、平成10年から専用電話回線による「大阪市救急情報サービス」を設置し、24時間365日、市民に救急病院を案内する電話窓口サービスを実施していました。

しかし、非医療従事者である消防職員にとって、利用者が訴える症状からどの診療科目を案内すれば良いか判断に迷うといった課題を抱えていました。

また、高齢化の進展に伴い救急件数が増加傾向にある中で、突然の病気やケガで、救急車を呼ぶべきか、医療機関へ行くべきかなど、判断に迷った住民が119番通報するといったケースがあり、救急件数の増加の一因にもなっていました。

このような中で、消防と医療が連携し救急医療に関する住民の不安に応える相談窓口として、平成21年10月1日に総務省消防庁のモデル事業により大阪市域を対象に「大阪市救急安心センター」を開設しました。

その後、平成22年4月には大阪市を含む大阪府内13消防本部16市へ拡大し、名称も「救急安心センターおおさか」に改称、同年12月には大阪府内全域43市町村へと拡大し、現在、各市町村を管轄する27消防本部により共同運営しています。

救急安心センター事業の実施主体は大阪市消防局で、今年度の予算額は約2億5千万円となっており、その2分の1を大阪市が、残りの2分の1を府内各市町村が負担しています。

大阪市消防局内に#7119又は06-6582-7119による専用回線を16回線設け、医師1名、看護師2～16名(年末年始、ゴールデンウィーク等の祝日、曜日や時間帯など需要に応じて人員を調整)、監督員(消防職員)1名を配置して運用しています。



開設当時の「大阪市救急安心センター」です。当時は指令情報センターの一角に設置していました。